

科目名 在宅看護論実習 時間割表記名 在宅看護論実習	配当時期 3年次 単位数 2単位 時間数 時間(日間)	講義担当者 隈部直子
事前学習内容 実習要項に準ずる		
科目全体のねらい・授業目標 <b>【実習目的】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で生活・療養する療養者とその家族を理解し、療養者とその家族の生活を支える看護が実践できる。</li> <li>2. 地域包括ケアシステムにおける看護職の役割と、療養者と家族を支える多機関・多職種との連携と協働について理解する。</li> </ol> <b>【実習目標】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅療養者とその家族を理解し、在宅における看護職の役割と援助の実際が理解できる。</li> <li>2. 住み慣れた地域において在宅療養を支えるサービスを理解し、他職種の中での看護職の役割が理解できる。</li> <li>3. 療養者が入院中から退院後の生活を不安なく過ごすことができるように退院後の生活に関する検討、調整される実際が理解できる。</li> <li>4. 保健・医療チームの一員としての自覚を持ち、専門職業人として望ましい態度がとれる。</li> </ol>		
<b>DPとの関連</b> DP1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された生活者として理解することができる。 DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。 DP3. 一人ひとりの多様な価値観や人権を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践できる。 DP4. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割を理解し、多様な場で生活する人々の生活の質の向上のために多職種と連携・協働する意義と方法を理解することができる。 DP5. 自己を理解し、他者を尊重したうえで、人間関係を構築することができる。 DP6. 専門職業人としての責任を自覚し、広い視野にたつて物事を考え、自己研鑽することができる。		
<b>実習の流れ</b> 在宅看護論実習は、在宅で生活・療養する個人とその家族を療養者とし、療養者が老いても障害をもつていても、医療が必要であっても、今まで住み慣れた地域で自分らしく生活をしている人であることを理解する科目である。また、その人の生活を看護職としてケアマネジメントすることやその実際を学ぶ科目である。 在宅看護論実習は2単位 90 時間からなり、多様な施設実習を通して実習目的の到達を目指す。 訪問看護では、在宅療養者とその家族を理解し、在宅における看護職の役割と援助の実際を学ぶことを目的とし、訪問看護ステーションの機能と役割、看護過程の展開、看護職の役割と基本的態度を学ぶ。 在宅療養を支えるサービスでは、住み慣れた地域において在宅療養者の在宅療養を支えるサービスを理解し、多職種における看護職の役割を学ぶことを目的とし、サービスの実際と意義、多職種連携における看護職の役割を学ぶ。 在宅看護の連携では、在宅療養移行期における支援と在宅での生活を支えるためのケアマネジメントの実		

際およびそれらにおける看護職の役割を学ぶことを目的とし、入院支援・退院支援、ケアマネジメントの実際と意義、多職種連携における看護職の役割を学ぶ。

なお、それぞれ4か所の実習場所において地域包括ケアシステムの構築の実現のためにそれぞれの事業所の取り組みの実際を経験し、それぞれの地域性も理解しながら、住んでいる地域に関係なく、その人にとって適切な医療、サービスが提供される社会を目指していることについて理解する。

#### 評価

ルーブリックに沿って評価する。

#### 使用するテキスト

①系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基礎 医学書院

②系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論の実際 医学書院

他 既習のテキストを活用する